

**2014 AUTOBACS SUPER GT Round 6**
**43RD INTERNATIONAL SUZUKA 1000Km**

[予選] 8月30日(土) 入場者： 25,000人 天候： 晴れ

[決勝] 8月31日(日) 入場者： 36,000人 天候： 晴れ

トラブルに見舞われるも15位完走

第4戦菅生、第5戦富士、そして第6戦鈴鹿と 2014 SUPER GTシリーズ真夏の3連戦最大の山場「43RD INTERNATIONAL SUZUKA 1000Km」が鈴鹿サーキットで開催された。真夏の鈴鹿サーキットで開催されシリーズ最長1000kmの距離で争われるレースは、チームにとって最も気合の入るレースの1つ。今年は秋雨前線の停滞もあり例年より比較的過ごしやすい天候の中レースが開催された。

8月30日(土)

公式練習 9:40~11:30 天候： 晴れ 路面： ドライ 気温： 26℃ 路面温度： 30℃

天候は晴れ、路面コンディションはドライ。気温26度と例年と比べるとかなり涼しく感じられ、路面温度も30度と想定よりも低めのコンディションの中で公式練習がスタートした。まず和田選手がハンドルを握り、持ち込みセットの確認を行う。走り始めからのバランスも良く3周目には昨年の予選タイムを更新。セットチェンジを繰り返しながら予選に向けてさらにセッティングの向上を図っていく。20周目にピットインし城内選手に交代。城内選手もマシンのセットを確認し、さらに微調整を加えつつ周回を重ね、27周目には再び和田選手へ交代しコンパウンドの違うタイヤの比較テストを行い33周を走行したところで公式練習を終えた。



予選 Q1 14:00~14:15 天候： 晴れ 路面： ドライ 気温： 30℃ 路面温度： 40℃

14:00より行われたノックアウト方式の予選のQ1は和田選手が担当。予選開始後すぐにコースインせず、他車との間隔を見ながら約45秒後にコースイン。2周目に 2' 01.731、3周目にはS字で前走車に引っかかりながらも 2' 01.320を記録し6番手。さらなるタイムアップの手ごたえを感じつつ一度クールダウンし他車との間隔を調整していると、なんとここで赤旗が振られセッションが中断。約5分半弱の中断の後2:15に残り7分間でセッションが再開され、和田選手は再びアタックを試みるも、早めにアタックをしていたこともありタイヤのおいしいところをやや過ぎてしまいタイムアップすることができず、Q1通過まであと1台の14番手と非常に悔しい結果で予選を終えることとなった。



公式予選総合結果 14位 (2' 01.320)

8月31日(日)

フリー走行 8:30~9:00 天候:曇り 路面:ドライ 気温:25℃ 路面温度:29℃

決勝日の朝は曇り空で秋の気配を感じさせる涼しいコンディション。8:30に開始されたフリー走行開始では、まず和田選手がハンドルを握り決勝を想定しながらセッティングの確認作業を行う。7周目にピットインしドライバー交代の練習、手順の確認を行い、城内選手がハンドルを握る。城内選手も決勝を想定しマシンの感触を確かめながら安定したタイムで走行し、15周目にピットイン。ドライバー交代のシミュレーションを行い、30分間のフリー走行を終えた。



決勝 12:15~ 天候:晴れ 路面:ドライ 気温:27℃ 路面温度:31℃

決勝前の鈴鹿サーキットは爽やかな風が吹き、日差しが心地よい絶好の観戦日和。36,000人もの大勢のレースファンが固唾を飲んでスタートの瞬間を見守っている。まずは「交通安全啓発活動」の一環して三重県警の協力により白バイ、パトカーによる先導でパレードランを1周、続いて通常通りフォーメーションラップが行われ、1000kmの熱く長い戦いの火ぶたが切られた。スタートドライバーは和田選手。大きな混乱もなくスタートしオープニングラップを15番手で通過、2周目の1コーナでは21号車のアウディをパスしポジションを14番手に上げる。その後も前を走る48号車GT-Rを追いかけプッシュするも、10周をすぎた辺りで「リアタイヤが厳しい」と和田選手から無線が入る。予選で使用したハードコンパウンドのタイヤが急激にグリップダウンし始めなかなか前を走るGT-Rを捉えることができない中、大きくタイムを落とすことなく我慢の走り続け30周目にピットイン。この時点でポジションは11番手。スーパーハードのタイヤに交換し城内選手にステアリングを託す。



21位でコース復帰した城内選手は上位を走るマシンと同等のタイムで周回を重ね着実に順位を上げていく。15番手までポジションを回復した41周目に城内選手から「リアタイヤ周りがおかしい! ホイルナットが緩んだかも!」と無線が入る。急遽ピットインするとやはり左ホイルナットに緩みが。各部をチェックしタイヤ交換をしてピットアウト。この間に上位から3周遅れの24番手までポジションを落としてしまうが、その後も和田選手、城内選手ともに諦めることなくポイント圏内をめざし懸命にプッシュし続け、さらに3回のドライバー交代を繰り返しながら残りのレースを走りきり、15番手まで追いつけた153周目にチェッカーとなった。



決勝結果 15位完走 (153周 ベストラップ: 2' 04.347)

### 和田久 選手 コメント

このレースに懸けていただけに大変残念な結果となってしまいました。恐らく何もなければ4～6位だったでしょう。決勝ペースはトップ3以外とは二人ともほぼ互角だったし、最初のスティントのハードタイヤ以外のスーパーハードタイヤのパフォーマンスも本当に良かっただけに残念です。



### 城内政樹 選手 コメント

鈴鹿の1000Kmレースは絶対に結果を出すと挑みましたが残念な結果になりました。

支援して頂いている皆様には申し訳ない気持ちです。



### 黒田朋宏 監督 コメント

チームとして思い入れの強い鈴鹿1000Kmで、マシンの仕上がりも順調、前戦からの良い流れで挑むことができたレースで、上位を狙っていただけに言葉にならないというか・・・非常に悔しい結果です。

ホイールナットの緩みは昨年より悩まされていたのですが、数々の対策を重ね、細心の注意を払っていたので再発はしていませんでした。しかしながら鈴鹿は距離が長く使用するホイールのセット数が多いので、通常決勝では使用しない一昨年より使用していたやや劣化したホイールを使用せねばならず、それが緩みの原因となってしまいました。期待をして頂いていたスポンサー様や応援してくださっている皆様には本当に申し訳ない気持ちです。

2014シーズンも残すところ2戦となりましたが、最後まで諦めることなく、積極的に上位をめざしてしっかりと準備をして挑んでいきたいと思っております。

